

関係者との直接対話により信頼関係を構築！

【取組の概要】

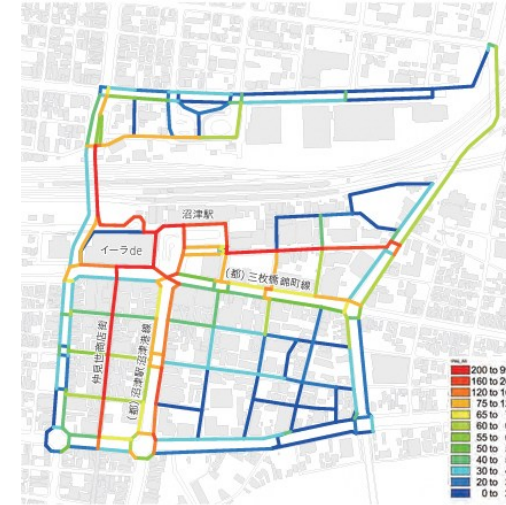
鉄道高架事業を中核とする沼津駅周辺総合整備事業による交通環境と市街地構造の変化を契機として、沼津駅周辺の市街地を人が集い、交流し、回遊する都市の顔として再構築していく取組を推進しています。

エリアの将来ビジョンである「中心市街地まちづくり戦略」を多様な関係者とともに策定し、ビジョンに基づき、ヒト中心の空間づくりに向け、パークレットの設置や駅前広場のデザイン検討などが進んでいます。



駅舎西側より臨む将来の沼津駅南口駅前広場（イメージ）

中心市街地まちづくり戦略で示された将来イメージ



歩行者通行量の分布を可視化



駅舎・駅前広場デザインイメージ案



駅前広場計画をオープンハウスにてPR

【担当者インタビュー】

沼津市沼津駅周辺整備部推進課

三浦 恒孝さん



Q. この取組におけるあなたの役割・担当は？

「中心市街地まちづくり戦略」の策定に携わり、現在は沼津駅周辺の駅前広場計画や土地区画整理事業を担当しています。

Q. あなたにとってウォークブルに取り組む「最初の一步」はなんでしたか？やりがいは何ですか？

視察で行った姫路駅のトランジットモールを見て感銘を受け、沼津駅でもぜひ実現したいと思いました。沼津駅周辺は鉄道高架事業を契機に、100年に一度の大転換の時期にあり、大きなプロジェクトに関われるのがやりがいです。

Q. 市民や関係者と対話する際、こだわっていることは何ですか？

ウォークブルの計画づくりや社会実験などを行う際は、市民はもとより、交通事業者や警察との信頼関係構築が大切です。やり取りをする際はなるべく会いに行き、想いを直接伝えることで、徐々に理解が得られていると感じます。

Q. ヒト中心の空間づくりに向け、合意形成を図るためにデータをどのように活用していますか？

スマホやGPS端末を用いた歩行者経路調査や、公共空間再編による歩行者行動や空間特性などの評価分析を通じて、交通状況の可視化やヒト中心の空間づくりを行う効果を定量的に見せることにこだわりました。調査費用はかかりますが、合意形成にとっても効果があったと思います。

Q. ウォークブルに係る制度をどのように活用して取組を進めていますか？

「まちなかウォークブル推進事業」や「都市・地域交通戦略推進事業」などを活用し、将来的な街路空間再編、駅前広場整備などを目指し、ビジョン・計画策定や社会実験などを実施しています。